

英語によるコンテンツ中心の講義における 討論活性化のためのチームプロトコルメソッドの活用研究

ユ・ソクフン著

Department of Linguistics, College of Liberal Arts,
Korea University
長谷川由美 訳

<論文原典>

내용중심 영어강의에서 토론 활성화를 위한 팀 프로토콜 기법 활용연구

(2011) *Language Information*, 13, 67-92,

Publisher's name: Research Institute for Language & Information,
Korea University, Seoul.

Abstract

Seok-Hoon You. 2011. Team Protocol Method as an effective way of enhancing students' participation in the discussion session of English-mediated subject courses (*Language Information*. Volume 13. 67-92). A protocol is a predefined written procedural method in the design and implementation of experiments in the natural science in order to standardize a laboratory method to ensure successful replication of results by others. Detailed protocols also facilitate the assessment of results through peer review. In this study, a type of team protocol method is adopted for enhancing and activating group discussion sessions of subject course taught in English at the college level. Students are required to compile and submit a very highly elaborated written protocol reports per session as a part of requirement and for evaluation. Advantages of the method are fully exploited to ensure quality of discussion to its maximum level. Exact components, procedures and employment schemes are fully described and explored. Finally, actual course evaluation is provided as a substantial and supporting evidence for the benefit of the method. The method has proven to be an effective way of dealing with well-known defects of conventional discussion activity. (Department of Linguistics, Korea University)

Key words: team protocol method (TPM), group discussion, protocol-keeping, protocol-keeper, facilitator, moderator, student-centered, peer-collaboration, heuristic

1. はじめに

プロトコル (Protocol) は主に複数の実験者が共同研究をするとき、標準化された実験や作業を進めるために、生物学、化学、医学などの応用化学分野で一般的に活用されている研究方式であり、標準化された結果をより早く得るために生み出されたものである。本研究の目的は、応用化学分野で広く使われているプロトコルメソッド (Protocol Method、以下 PM) に基づいて開発されたチームプロトコルメソッド (Team Protocol Method、以下 TPM) を英語によるコンテンツ中心の講義 (English-mediated subject course) での討論¹活動に適した形に修正を加えて、授業で行うことにより、より大きな達成度と英語力向上への可能性を模索することである。そのために具体的な TPM の構成案、構成要素、実行手順、評価方法などを提案し、実際に 1 学期間、TPM を行った講義の評価をもとに、その効率性について議論する。

教育現場におけるプロトコルは、出来事・経験・発話の最中に、もしくは、その直後に、手を加えられていないものを録音、録画したもの、または書き写した記録を指す (ソウル大学教育研究所、1999:771-772、キム・ピョンウォン、2011:13-15、再引用)。PM は、通常、学習者がリーディングやライティングの過程において、思い浮かんできたことをそのまま話す発話思考法、学習者と教員 (あるいは研究者) とのインタビュー (Oral Proficiency Interview、OPI)² などを通しての学習過程の分析と評価、および指導のための道具として使われてきた。PM を使うことにより、学習者の思考や学習過程の比較的詳細な情報を得ることができ、また、その情報をもとにして、現在よく使われている成果中心ではなく、プロセス中心の評価と指導ができるという点で教育的な活用価値がある。

PM を利用した既存の研究では、主に学習者のリーディングとライティングの過程に関する研究が多いが、本研究では、学習者のリスニングとスピーキング、そしてノートテイキング (note-taking) の過程を観察することを目標とした。そのために PM から発展した TPM で討論を進め、結果をレポート (protocol) 形式で作成すると同時に、学習者間での相互評価に至るまで、その活用の可能性を広げた。実際の教育現場における TPM のより具体的な適応可能性を模索するために、大学レベルでの英語によるコンテンツ中心の講義で、TPM を活用した討論を行う授業を体系的に行った。さらに、学習者の学習動機を活性化させることにより学習者主導の学びを引き出し、このプロセスにおいて学習者の英語に対するバリアを克服し、英語力の大幅な向上を生み出す可能性に関する調査も行った。

2. 先行研究と問題点

学習者が文章を読んでいる最中に考えている内容をつぶやく発話思考法は、最も広く知られたプロトコル生成方法の1つで、学習者のリーディングの過程を評価する資料として活用されている。リーディングの過程では、学習者の思考は速く、複雑に進むため、全てが話されるわけではないが、発話思考法によって得られる情報はリーディングの全体的なプロセスを最も詳しく表す資料として、また、学習者がリーディング中に使用する戦略を推測するための根拠となる。

Davis & Bistodeau (1993)、Olson, G.M. et al (1984)、パク・ウンギョン (2010) は発話思考プロトコル分析方法の限界と問題点として、資料収集過程で学習者の反応を意図せずに強要するという点と、収集されたプロトコル資料の分析が難しいという点を指摘した。プロトコルを通して見えてくる学習者の反応が、認知能力不足によるものなのか、言語能力に問題があるのか、その他の要因と結びついているものであるのかを判断することが難しいからである。また、プロトコル分析により学習者がリーディングの過程で使う戦略を知ることができるのだが、その戦略が頻繁に使われているために、すでに自動的に戦略を使っているので話されなかったり、また、発話思考がリーディングの過程に直接影響を及ぼし、学習者の理解過程をゆがめてしまったりするという問題点があることも指摘した。そのような短所があるにもかかわらず、記憶による限界と情報の損失を最小限にとどめ、直接、情報を得ることができるという長所ゆえに、その活用度は高いと言える。

一方、プロトコル分析を使っただけのライティング過程の分析は、文字を書いているときの思考過程についての情報をもとにフィードバックを提供できるという長所がある。結果中心のライティング指導では、以前できなかったような具体的な指導や学習者によって異なるライティング戦略や過程の把握が可能となり、自己点検および調整能力を育成することもできる。また、指導-学習と評価が有機的に結びつくことにより、授業の質の向上と学習者の能力伸張のために情報を活用できる (キム・ピョウンオン, 2011)。キム・ピョウンオン (2011) は情報処理という観点から、プロトコルを利用したライティングとスピーキングを表1のようにまとめた。

表1：プロトコルを利用したライティングとスピーキングの分析

領域	生成主体	同時性		特徴
		リアルタイムの分析	事後分析	
ライティング	学生	リアルタイムな自己記録法	直後の自己記録法	学生自身が過程を記録
	教員	観察推論法		教員が観察しながら記録
スピーキング	学生	発話思考法	自己回想法	学生自身が思い出しながら話す内容を録音
	教員	リアルタイムに質問する方法	直後のインタビュー方法	学生と教員間のインタビュー

プロトコルにはライティングとスピーキングの2つの領域があり、それらの各領域は学生と教員の2つの生成主体に分けられる。ライティング過程の学生の部分は思考過程が記録されるリアルタイムな分析と、ライティングが終わった直後に記憶に基づく事後分析、つまり同時性の有無によって、さらに区分される。

ライティングのリアルタイムな自己記録法は、書いているときの思考過程を簡単に書き留める方法で、思考過程をリアルタイムに分析することができるという長所があるが、学生はライティングと記録を同時にしなければならないために、情報が制限されるという問題点がある。それに対して、ライティング直後の自己記録は書き終わった後にライティング中の思考過程を思い出して書く方法である。この方法はリアルタイムな自己記録法と比べて、書く作業を邪魔しないという長所があるが、全ての情報が記憶に依存しているという短所がある。観察推論法は、教員が学生のライティングをしている過程をよく観察し、学生が文を誤って書いたり、書き直したりするのを観ながら、思考過程を段階別に推論する方法である。

スピーキングにおける発話思考法は学生が直接考えていることを述べる方法で、教員が入手したいと考えている結果がリアルタイムで提供されるという長所があるが、相当な認知的思考（metacognition）能力³が必要とされる。教員主体のリアルタイムな質問方法は、教員による論述過程の観察や、学生に質問することによって情報を得る方法である。ライティング*作業が進行しているときに、教員が観察したり学生に質問したりしたことを総合して、ライティング*の過程を推論する。この方法では、学生は過程を記録しなくてもよいので簡単に使用できるが、自然な文を書く**作業を妨害する可能性があり、細部の情報まで把握することは困難である。自己回想法はライティング*が終わってから、学生自らがライティング*の過程を思い出す方法である。そして、直後のインタビュー方法

は、ライティング*の後、教員が学生とのインタビューを通して、ライティング*の過程を推論する方法であり、インタビューをしながら添削指導ができるという長所がある。

(訳者注：*部分は「リスニング」、**部分は「聞く」ではないかと思われるが原典のまま翻訳した。)

本研究では、キム・ピョウンソン (2011) が提起したプロトコル方式の長短所を踏まえた上で、その改善案として TPM を提案する。既存のプロトコル方式の問題点として、教員の学生指導にかかる膨大な時間と労力が挙げられていた。そして、学生自身も、自ら、または教員との一対一のインタビューなどの過程を通して、より良い学習効果を得られる可能性はあるものの、過度の認知的あるいは情緒的負荷が負担となりかねず、また、達成した内容の内在化や正確さに対して確信を持ってない場合もありうる。次の章では、このような短所を解消し、学生が授業に集中し、高い達成度だけでなく言語能力も向上させる TPM の設計、構成、実際の運用と評価について述べる。

3. TPM の概要、構成の原則、実際の運用

3.1 概要

既存の PM は特定の学生個人の授業内容理解および習得のための認知処理過程を詳しく観察することによって、ライティングおよびスピーキングの過程における間違いの訂正、そして学習効果の向上を目的としている。しかし、この過程においては、前に提起されたような様々な問題点があった。TPM はこのような限界を克服するために、次のように設計されている。

- (1) チームプロトコル討論
- (2) プロトコルレポートの作成 (付録1 参照)
- (3) 評価 (付録2 参照)
- (4) 討論のまとめ

TPM 討論は、科目と学習者一人ひとりの特性を考慮して作られたチームで、出題されたトピックについて特定の手順に従って討論することである。学期の始めに構成されるチームのメンバーは1学期間変わらず、チーム数は一般的なチームプロトコルの2倍前後にした。2倍程度とした理由は、毎時間、司会者 (moderator、以下 M)、書記 (protocol-keeper、以下 P) の担当者を相談して決めるが、この2つの役割を全てのメンバーが公平に、少なくとも1学期間に1度ずつは担当できるように考慮したためである。残りのメンバーは討論者 (discussants、以下 D、ディベートでは賛成討論者 < supporting

discussant、以下 Ds > と反対討論者 < opposing discussant、以下 Do >）、そして必要に応じて、潜在的支持者（hidden discussant、以下 Dh）の役割をする。表2はTPMのメンバーとその役割を要約したものである。

表2：TPMのメンバーの役割

メンバー		人数	役割	備考
司会者 (M)		1	M と P を除いた全メンバーに公平な討論参加機会を付与	討論参加の義務はない
書記 (P)		1 ~ 2	プロトコルを見ながら、討論の詳細な情報が書かれているレポートを作成、メンバーの参加と評価、レポートの提出	
討論者 (D)	討論者 (Ds-Do)		義務的に討論に参加	
	潜在的支持者 (Dh)	1 ~ 2	討論活性化のため潜在的に支持	
教員		1	討論促進者	討論には参加しない

Mの役割は司会者として討論がトピックからそれないようにし、MとPを除いた全てのメンバーに公平な討論参加機会を与えることである。Pは討論参加ではなく、提出しなくてはならないレポートを正確に作成する役割を担う。Pは全てのメンバーの発話の順序や内容を形式に沿って、可能な限り詳細なレポートを作成しなければならない。また、その内容を参考にして、レポートの最後にある評価の集計 (tally) で、それぞれのメンバーの参加度を質的討論参加頻度 (number of quality turns)⁵と技術評価 (descriptive evaluation) に分け、多元的に評価した結果を最終評価として各メンバーに伝えた後、間違いがないことを確認し、署名を得た後に教員に提出する⁶。万が一、最終評価に間違いがあった場合は、Pと該当するメンバーが具体的に証明できる資料を確認し、話し合ったうえで、修正したものを提出する。しかし、全てのメンバーに対する最終評価は教員の役割である。教員は提出されたレポートの内容と評価の集計を参考にして、各メンバーの評価の適切性を確認し、チーム間の偏りを減らすために標準化 (norming) を行う。全メンバー中、MとPは討論への参加義務はないが、特別な場合のみ、選択的、限定的に討論に参加できる。教員は討論を促進する立場であり、討論には参加しない。

チームプロトコルの最後には、討論のまとめ (wrap-up discussion) を行う。全チーム

のPから2～3人を選び、学生全員の前で各チームの討論内容と特徴的な内容を簡単に発表し、これらに対して全メンバーが質疑応答をする。この時、発表および討論で間違いがあれば教員が訂正する。

3.2 構成の原則

既存の討論活動の問題点は、討論チームの非組織性および非効率性、討論進行時におけるメンバーの討論参加機会の不均一性、評価資料および基準の不明確さ、教員中心の一方的な評価などがあげられる。これらの点を改善し、TPMを効率的に活用するには、次の原則が徹底して守られるべきである。

(1) **よく似た背景を持つ学習者の分散**：TPMの成功はメンバー構成、すなわち、誰をどこのチームに所属させるかにかかっている。既存の討論方式では、各メンバーの特性をあまり考慮せずにチーム構成をしてきたため、討論の効果と効率性が低下するという問題があった。具体的には、国籍、専攻、性別、学年、英語能力レベル、友人関係などで似た背景を持つ学生が同じチームにいと、討論の課題遂行の際に、討論参加機会の偏重化、討論の方向の一方性、英語力が低い学生の討論参加機会の剥奪などの阻害要因が発生することがある。これを事前に防ぐためにPTMではよく似た背景を持つ学習者を分散させることを基本とした。

(2) **均等な討論参加機会**：全てのメンバーに均等な討論参加機会を与えることが重要である。このためMの役割が非常に重要となる⁷。

(3) **詳細なまとめ**：Pは各メンバーの発話の順序と内容などが詳細に書かれているレポート作成に責任を持つ。

(4) **相互交差評価**：実際の討論では、メンバーが3つの役割に分かれ、PやMの役割には相当な権限が与えられることとなる。公正な学生評価結果となるように、この権限を適切に使う方法を考える必要がある。TPMでは相互交差評価方式を採択しているが、これは、たとえPが1次評価の権限を持っていても、メンバー各自が評価の公正性を確認して、意見がある場合はPだけでなく他のメンバーとの協議を経て、最終確認後、本人が署名する。このようにして提出されたレポートは教員の標準化を経て最終評価とする。

3.3 環境および配置

TPMを学習現場で適用するためには、十分な広さの場所、討論に必要な座席配置、遮音施設、プロジェクターとスクリーンの設置など、環境が整っていない⁸。一旦チーム構成ができあがれば、学期中は講義室内のチーム配置表で指定された場所に

チームメンバーと一緒に座る。そして、学期中に3回程度チームの場所を循環させることによって、座席の公平性を維持する⁹。1学期で計6回のTPMを実施する場合、次のTPMまで2～3週間あくことになるが、TPMの日程とトピックはできるだけ事前に提示し、指定されたトピックに関する事前講義および十分な準備期間と討論後に整理する時間がなくてはならない。(付録1:「実際の講義計画」参照)

3.4 TPMの時間配分および運用

実際のTPMの時間はトピックとチームメンバーの数を考慮して決めることになる。本研究では30分から75分とし、状況によって柔軟に調節できるようにした。メンバーがこの方式に慣れ、お互いに親しくなれるよう、メンバー各自が自分のバックグラウンドの紹介をトピックとして、第2週に30分間の初めてのウォーミングアップTPMを行った。

TPM開始にあたり、まず、各チームは当日の担当者MとPを決める。TPM進行中、教員は促進者(facilitator)として、できるだけ討論には介入せず、特に討論内容に関連した質問などに関する回答は避け、単に活動の進行に関する質問や問題が発生した場合のみ対応する。

討論中、メンバーは各自の役割に集中する。討論内容のレポート作成などの仕事量がひとりのPでは大変な場合は、教員やメンバーで相談をし、Pを2人以上にすることもできる。Pは討論進行中、討論の内容をできるだけ詳細に記録するよう努力し、必要に応じて、携帯電話、スマートフォン、その他の録画や録音できる機器を使ってもかまわない。この録画、録音されたものは、Pがレポート作成の際に参考可能である。詳細を記したレポートは、チームメンバーがその内容を確認し、最終確認の署名をした上で教員に提出される。

3.5 実際の討論活動の構成

OPIのような会話評価技法では、面接官と被面接者との対面インタビューによる質疑応答で発話サンプルを抽出し、スピーキング熟達度を測定する(Underhill, 1987; Fulcher, 2003; シン・ドンイル, 2004; チェ・ウンギユ, 2005; キム・ジョングックほか, 2006, 再引用)。しかし、インタビュー時の発話は面接官の質問に被面接者が受動的に答えるだけなので、実質的に会話能力を評価する道具としては議論の余地がある(Hughes, 2002; キム・ジョングックほか, 2006, 再引用)。

Hughes (2002) の研究を韓国語を対象として検討したキム・ジョングックほか(2006)は、インタビュー形式でコミュニケーション能力を評価する妥当性を調査するために韓国語によるインタビュー資料を収集し分析したが、やはり、インタビュー形式では被面接者

が質問する機会や発話の順序交代に問題があり、相互作用的なコミュニケーション能力を評価するには限界があると指摘した。さらに、描写、叙述、情報加工、要約、説明、意見の陳述など具体的な話よりも、さらに多様な談話能力を評価できる道具の必要性を提起した。また、会話評価はチーム内のメンバー間での対話関係や役割は事前に設定されるべきであり、学習者の相互作用的な会話能力はロールプレイ、討論、情報補充活動などを活用して評価することが望ましいと主張した。

TPM はインタビュー形式の限界を補い、相互作用的なコミュニケーションを通しての講義内容理解の向上および言語能力の評価と改善が可能であるという点で意義がある。TPM は事前活動 (pre-activity)、討論活動 (main activity)、事後活動 (post-activity) の3つの段階に分けられ、段階別活動は表3の通りである。

表3：TPM の討論活動の段階別過程

段階	内容	備考
事前活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ TPM 討論方式の理解 ・ 事前調査活動 ・ トピックの提示 ・ 討論方式の決定と役割分担 	M、P、D (Ds、Do、Dh)
討論活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ M 主導による討論の進行 	M と P は討論に参加義務はない。
事後活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳細な記録の作成 ・ 討論参加者および教員の評価とフィードバック ・ 結果確認後、レポート提出 	相互交差評価の後、教員が評価結果の標準化を行う。

「事前活動」では、教員による TPM 討論方式についての説明が必要である。特に討論では参加者の背景とは関係なく、全員に負荷がかかるように特に考慮しなければならない (イ・ジョンファ、2010)。次に、トピックについてディベートをするのか、問題解決のための討議をするのか、討論方法を定める。討論参加者は討論に先立ち、講義や個々人の事前調査でトピックについて知識を深める。学習者が討論と同様に論証活動を成功させるには、活動の前に内的対話による論証活動が必須である。内的対話による論証準備の過程を通して、討論参加者は相手を説得するための自分の主張を構成し、その主張に対して自ら問題提起をして答えを探す。また、予想される反論を考え、自分自身の主張を検討する (キム・ミンエ、2010)。

「討論活動」の段階では、討論方式と規制、および役割を再確認する。全討論活動は P によってリアルタイムに記録される。このようにして作られたプロトコルは、後の分析時に、学習者が討論過程における内容の熟知度、使用するスピーキング戦略 (発話の順序交

代、主張の展開、反論、割り込みなど)、学習者のエラー、エラー修正の様子などを把握するための資料として活用できる。

「事後活動」の段階では、討論内容を整理してメンバー間での交差評価と教員による評価、およびフィードバックを行う。カン・スンヘ（2005）は、語学教育で最も強調される表現機能の1つとしてのスピーキングが、実際の韓国語教育現場で体系的な教授・学習プログラムにうまく取り入れられていないという現実を指摘し、討論活動を中心としたプログラムと評価方法の開発の必要性を主張し、討論評価方法の開発の手順を提示している。カン・スンヘ（2005）は討論の最後の段階で学習者が討論内容を録画した資料を見て、自分自身のエラーを修正できるような活動方法を提案した。この最後の段階で、学習者は討論の内容やエラーの修正だけではなく、直接、評価者になり、記録担当者によって作られたプロトコルを分析して討論者と司会者を評価できる。そして、教員はプロトコルを通して、学習者への詳細な評価とフィードバックを行う。

3.6 TPM に対する学生による評価

2011年の春学期に開講された科目は言語と文化の関係に関する教養科目で、合計16週にわたり週2回75分間の講義である。受講生は57名であったが、うち2人は中間試験以降出席せず、最終的には55名が最後まで受講した。受講生の中には12名の留学生がおり、英語圏からの留学生が5名、中国語圏が6名、モンゴル語圏が2名であった。留学生の韓国語レベルは初級から上級まで分散しており、非英語圏出身の留学生の英語レベルは中級以上で、受講には問題はなかった。次の表4は、該当科目の受講評価の結果をまとめたものである。

表4：実際の受講評価の結果のまとめ（評価は5点満点）

	受講人数	回答者数	学生の自己評価の平均	外国語による講義の平均	全講義の平均
該当科目／全体	57／126,996	51／112,459	3.98／3.91	4.45／4.22	4.49／4.25

学期末まで受講した55人の学生のうち51名が4つの質問事項で構成された開放型講義評価に答えた。表4で特徴的な点は「学生の自己評価平均」「外国語による講義の平均」「全講義の平均」の高い評価結果である。これは講義が英語で行われたにも関わらず、学生の自己評価平均が全体平均よりも高く¹⁰、本科目が外国語で行われた全講義科目の平均、および全講義科目の平均を大きく上回った。

51 人の学生の開放型講義評価は次の表 5 のように要約される¹¹。

表 5：実際の講義評価のまとめ（付録 4 参照）

肯定的	否定的	無関係	回答なし	全体
36	2	7	6	51

上の表 5 で「否定的」に分類された 2 人の回答は「the given information and instructions for class discussion were unclear during many times. (16)」と「授業で内容をもっと深く学習できたほうがよかった (24)」の 2 つで、両方とも講義の内容と授業方法に関するものであったが、「肯定的」な回答をした 2 人の学生 (6 と 35) の回答と相反している。本科目の受講生のうち、言語学専攻の学生が 2 名、そして文系専攻の学生が半分にも満たない教養科目であるという点を考慮する必要がある。

肯定的な評価を見ると、次のように多くの点において肯定的な意見が述べられている。「a great delight、面白くて多文化的、退屈しなくておもしろかった、公平でためになってよかった、was fun、very enthusiastic、the exact course guideline、to share my ideas、本当に内容が充実していた良い授業だったと思う、unique and interesting、one of the best courses、Protocol method is creative and works quite good、easy to understand、the protocol sessions were especially entertaining、get a better understanding of the concepts and ideas、自由な雰囲気での授業、an interesting class、very lively、a great class、really enjoyed it、英語で表現することが難しいと感じることが少なくなってよかった、The free flowing nature and openness of the class and especially the protocol sessions、自発的に参加できた、very well designed、to freely express my opinions、とても興味深い、very interesting and nice class、新鮮である、英語の実力がアップした、先生の授業進行は本当に印象的だった、学生たちみんなを参加させようとしていた、involve、情熱的、非常に満足だ」

項目別講義評価に対する学生の回答は表 6 にまとめた通りである。全 20 項目のうち本研究と直接関係がない「講義運営」に関する 5 項目は表 6 から除外した¹²。表 6 で授業への取り組み度に関する項目は 1、3-4、14-15、達成度に関する項目は 14、18-19、そして英語能力に関する項目は 17-19 であるが、全ての項目の平均的評価が高く、その他の科目との標準偏差にも大きな差が見られた。（訳者注：その他の科目の標準偏差は未公開である。）

表6：項目別講義評価の要約（5.0満点）

項目	番号	項目の説明	評価	標準偏差
自己評価	1	私は遅刻や欠席をしなかった。	4.25	1.13
	2	私は授業の予習・復習を毎週した。①1時間未満 ②1時間以上2時間未満 ③2時間以上3時間未満 ④3時間以上4時間未満 ⑤5時間以上（訳者注：⑤は「4時間以上」と思われるが原典のままとした。）	2.75	1.52
	3	私は質問と発表をし、この授業に積極的に参加した。	3.94	1.10
	4	私はこの授業の課題と試験に一生懸命取り組んだ。	4.39	0.94
	5	私はこの授業の成績の予想は、①F ②D+D ③C+C ④B+B ⑤A+Aである。	4.57	0.92
講義内容	11	担当教員は講義目的に沿って十分な知識を伝えた。	4.51	0.74
	12	担当教員はこの科目に必要な関連資料を配布した。	4.57	0.65
	13	担当教員は学生が講義内容を正しく理解しているかどうか把握しようとしていた。	4.43	0.76
	14	私はこの授業で学習しなければならないこと（知識、技術、技量など）を学ぶことができた。	4.04	1.11
	15	私はこの授業を他の友達に積極的に推薦したいと思う。	4.41	1.00
外国語講義	16	私は該当する外国語でのコミュニケーション能力がある程度ある。	N/A	N/A
	17	この講義は授業の全てが該当する外国語で行われた。	4.55	0.92
	18	私はこの講義で担当教員の外国語を理解することに問題はなかった。	4.43	0.94
	19	私はこの講義の担当教員が伝えようとした授業内容を十分に理解した。	4.37	0.96
	20	私はこの授業を通して、外国語能力が向上したと思う。	N/A	N/A

4. 討論とまとめ

本研究ではTPMを討論活動に適用するための準備と諸条件を注意深く検討し、さらに、既存の討論活動の短所を克服する代案としての可能性を調査した。TPMの特徴は次のように整理できる。

表7：TPM の特徴

	TPM	備考
主体	学生中心（教員は促進者）	教員中心
協力	仲間との協働 (peer-collaboration) - モニタリング (peer-monitoring) - サポート (peer-support) - 評価 (peer-evaluation)	
活動の中心	過程（process）	結果（product）
指導権	自己主導的（heuristic）	教員主導的
評価の方向性	相互交差評価	一方的な評価
コミュニケーションの形	相互的作用	一方的
討論参加機会	均等	

討論活動の長所を最大限に生かすため、表7に示した TPM の特徴を有効活用することにより、次のような効果が期待できる。

- (1) 高度な同期化による授業への集中度の向上
- (2) リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの言語の4機能以外にノートテイキング（note-taking）機能の追加
- (3) 教員の授業時間の節約¹³ および討論活動を集中して観察できる可能性
- (4) 協働学習形態の新しい学習戦略

TPM と討論活動をつなぐにあたって、複雑なプロセスに起因する活動初期の混乱と TPM に適応できない学生たちに対する代案の必要性和問題点もある。その他に付録4にもあるように、自分の英語力が向上したようだと評価した参加者がいるが、これを実質的に検証するためのシステムが必要である。また、様々な科目で TPM を適切に活用するためには、科目の特性に合った構成が必要である。

以上の短所にもかかわらず、TPM を活用した討論活動は、学習者主導の活発な協働活動を促し、活動過程に重きがおかれる相互作用的コミュニケーション中心の授業を可能にし、その結果に対する厳正な相互交差評価が可能であるという点で、教授法としての価値があると考えられる。

注

- 1 討論は大きく分けて2種類あり、1つは問題解決のための合意点などを探す協同的コミュニケーションである討議 (discussion)、もう1つは与えられた問題に対して賛成と反対の立場に分かれて競争的コミュニケーションを行うディベート (debate) である (イ・ジョンファ、1983; ク・ヒョンジョン、2002; イ・ジョンファ、2010; チェ・インヨン)。
- 2 The ACTFL Oral Proficiency Interview, or ACTFL OPI as it is often called, is a standardized procedure for the global assessment of functional speaking ability. It is a face-to-face or telephonic interview between a certified ACTFL tester and an examinee that determines how well a person speaks a language by comparing his or her performance of specific communication tasks with the criteria for each of ten proficiency levels described in the ACTFL Proficiency Guidelines-Speaking (Revised 1999) devised by the American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL). (<http://www.actfl.org/i4a/pages/index.cfm?pageid=3348>)
- 3 自分の考えに対して批判的思考ができ、一次元高く自分自身を客観的に捉える認知能力。
- 4 Dの中に1～2人の覆面支持者 (hidden scaffolder、以下 Dh) を配置できる。Dhはチーム内で学習能力、語学能力、性格的に優れた学生の中から選ばれ、相対的に学習能力が劣るメンバーが討論に参加するとき、単語などを教える (input support)、言い直しをする (recast)、遠まわしに言う (rephrase)、明確にする (elaboration)、発話を促す (elicitation)、そして、非言語的、言語的表現による説明をする、実際の英語表現を教えることによってサポートする (scaffolding) 役割を担う。Dhの存在や役割は他のメンバーにはわからないようにすることが重要である。
- 5 本研究では討論活性化のため、授業には出席していても討論参加頻度が「0」の場合、評価は「F」とした。
- 6 Pの役割の比重が相対的に大きいため、場合によってはPが2人でもよい。MとPに対する評価は討論への参加度ではなく、司会者または書記としての各自の役割をいかに忠実に果たしたかによるものであり、その結果に対しては相互交差評価の原則に従って他のメンバーの同意を得なければならない。
- 7 Mがすべてのメンバーに討論に均等な討論参加機会を付与したかどうかは、メンバーの評価によって判定される。万一、Mの役割が適切でなかったと判定された場合は、減点の対象となりうる。
- 8 複数のチームが同じ場所で討論すると、他のチームの声や音による否定的干渉効果が

起こる。これを予防するためにはチーム間の距離を維持しなければならないので、十分な大きさの講義室を確保しなければならない。だが、TPM の特徴の一つである「講義室でしない討論 (Off-classroom session)」、あるいはインターネットやソーシャルネットワークサービスを利用した「オンライン (On-line) 討論」を活用することにより、空間的な制約を克服できる可能性もある。

- 9 本研究では全部で6チームあり、月に1度、2チームの座席を変えて、学期末までには、全チームが講義室の全ての場所に座るようにした。
- 10 これはすなわち、自分自身が全体平均よりも一生懸命に受講したと考えている。
- 11 成績確認の前に講義評価を義務的にすることになっているため参加度は高い。講義評価は記述式だったため、これを客観化するために記述評価を「肯定的」「否定的」「無関係」「無応答」に分け、該当する評価者の数字を表示した。「無応答」は内容が書かれていなかったり、記号や数字で書かれたものを、「無関係」は単純な挨拶の言葉(「ありがとうございます」「thank you」など)が書かれているものとした。
- 12 「講義運営」に該当する項目は次のとおりである。
 - (6) 担当教員は講義の準備をしっかりとっていた。
 - (7) シラバス通りに、毎授業が体系的に組み立てられていた。
 - (8) 担当教員は講義時間をよく守っていた。
 - (9) 課題、授業中の質問などに対する回答と指導が充分であった。
 - (10) 休講があった場合は補講が行われた。
- 13 TPM では、TPM への参加の有無を確認することによって出席確認ができ、学生の相互交差評価によって1次評価にかかる時間を節約することができる。

参考文献

- 강승혜 . (2005). 한국어 고급 말하기 평가 도구 개발 기초 연구 - 고급 말하기 토론 활동을 중심으로 -. 외국어로서의 한국어교육 30, 1-21.
- 구현정 . (2002). 대화와 토론 . 대학 국어 . 서울 상명대학교 출판부 .
- 김민애 . (2010). 한국어 토론 수업 내용 연구 . 고급 학습자의 논증 구성을 중심으로 . 어문학논총 . 30 (1), 101-126.
- 김종국, 신동일, 박성원 . (2006). 인터뷰평가의 담화분석 연구 - 상호작용 담화모형 관점에서 -. 한국어교육 . 17 (2), 45-68.
- 김평원 . (2011). 프로토콜 분석을 활용한 쓰기 과정 지도 및 평가 . 새국어교육 . 87, 5-35.
- 박은영 . (2010). 생각 말하기 (Think Aloud)의 대학 영어읽기 활동으로의 적용 , 『神學과 世界 . 67, 378-406.

- 서울대학교 국어교육연구소 . (1999). 국어교육학사전 . 서울 대교출판 .
- 신동일 . (2004). 비조직적 인터뷰 시험의 유용성 탐색 : 거짓 유창성과 과업 유의미성 중심으로 . *Foreign Language Education*. 10 (2), 131-154.
- 이정화 . (2010). 한국어 학습자를 위한 효과적인 토론 수업 방안 . *국제어문* . 48, 315-348.
- 이주행 . (1983). 화법의 원리와 실제 . 서울 : 경문사 .
- 임미성 . (2010). 사고 구술 (think-aloud)을 활용한 읽기 전략과 태도의 발달 양상 탐색 . *국어교육학연구* . 37, 419-445.
- 지현숙 , 윤지영 . (2008). 한국어 구어 교육에서의 토론 수업 연구 . *외국어로서 의 한국어 교육* . 33, 201-225.
- The American Council on the Teaching of Foreign Languages. (1999). ACTFL Proficiency Guidelines-Speaking: <http://www.actfl.org/i4a/pages/index.cfm?pageid=3348>
- Andrew S. Byon. (2004). Understanding the reading process of beginning American KFL learners: Using Think-Aloud protocols, *Journal of Korean Language Education*. 15 (1), 259-280.
- Davis, J. N., & Bistodeau, L. (1993). How do L1 and L2 reading differ? Evidence from think aloud protocols. *The Modern Language Journal*. 77 (4), 459-471.
- Fulcher, G. (2003). *Testing second language speaking*. Longman: London.
- Hughes, R. (2002). *Teaching and Researching Speaking*. Longman: London.
- Olson, G. M., Susan A. D. & Robert L. M. (1984). Thinking-out-loud as a method for studying real-time comprehension process. *New Methods in reading comprehension research*, eds. David E. Kieras and Marcel A. Just. Hillsdale, N. J. Lawrence Erlbaum Associates. 253-286.
- Underhill, N. (1987). *Testing spoken language: A handbook of oral testing techniques*. Cambridge. Cambridge University Press.

付録

付録1：実際の講義計画（不必要な部分は削除）

Week	Contents
1	1. Course Overview 2. Protocol Team Formation 3. Introduction to the Protocols (Sample Protocol)
2	Chapter1: Key Concepts: Activities: Protocol #1 Based on your findings about your teams' background information including language(s) and culture from the warming-up session, please discuss the following: 1. Reasons why different countries or ethnic groups have different number of languages. For example, Korean is a sole and unique language spoken by Korean people in and outside of Korea while it is not exactly like that in other regions. 2. How do different language(s) interact with people and culture (or civilization)? 3. Role of your language(s) in the background culture and civilization.
3	Chapter 2: Key Concepts:
4	Chapter 3: Key Concepts: Activities: Protocol #2 Based on in-class discussion about culture and civilization, please do the following: 1. Divide into two groups among your team members. 2. Maintain your position among group members between the two: "meme" theory vs. "gene" theory 3. Debate over your positions.
5	Chapter4: Key Concepts: Sapir-Whorf hypothesis, Whorfian hypothesis, linguistic determinism, linguistic relativity, kinship term, arbitrariness, on reading onomatopoeia
6	Chapter5: Key Concepts: Activities: Protocol #3 Discuss the following based on the preview of the movie extracts from Hwangsaneol: 1. Components of the power of language from each extract. 2. Are there any alternatives replacing the components?
7	Chapter 6: Key Concepts:

8	Midterm Exam.
9	Chapter7: Key Concepts: Activities: Protocol #4 1. Find out family terms of the following in your background language(s) and compare them with those in your teammates' language(s). Color term: RED Taste term: SALTY 2. Try to classify the terms into different groups. 3. Give reasons why you classify the terms into respective groups.
10	Chapter 8: Key Concepts:
11	Chapter9: Key Concepts: Activities: Protocol #5 *Let's assume that there is a language called "Morese" in Ural mountain area. The number of speakers of this language are known as 1532. 1. Divide your team into two groups as follows: Group 1: Defenders of "Morese" to keep it alive and proliferate. Group 2: Killers of "Morese" who desire to "KILL" the language. 2. Debate on the methods or ways how to achieve your goal.
12	Chapter 10: Key Concepts:
13	Chapter11: Key Concepts: Activities: Protocol #6 *Follow the steps. 1. Define the following key concepts: diglossia; dialect; versatility index; language switch; standard language; official language; linguistic prejudice; H(igh)-variety / L(ow)-variety language(s) 2. Review the following: Guideline for Standard Korean: "Contemporary language spoken by the cultured Seoulites" 3. Discuss appropriateness of the guideline in (2) with reference to the key concepts given above in (1).
14	Chapter 12: Key Concepts:
15	Review
16	Final Exam.

付録2 : TMP レポートの一例

Protocol # () -Team # ()
Names of members: A, B, C, D, E, F, G, H, I, J .. (Put real name with Code inside the parentheses)
Title : Writing system of one's own language
Date : August 29, 2011
Place : Woodang Hall 202 Presider : A
P-Keeper : F
Main Protocol (in summary) : A:
J:
H:
B:
A:
C:
G:
D:
B:
D:
C:
H:
A:
I:
F:
D:
...
<Tally & Report> [Number in the parentheses indicates number of turns assumed. Grade follows.]
A (8, A) -As a presider, she led this discussion well. She gave good questions to team to make people talk a lot. She helped us to think in different ways with opinions. And summarized well for people to understand. [Signature of member A]
B (5, B) -He participated well, He showed us various examples of dialects and analysed them well. [Signature of member B]
C (6, D) -She was very active in talking. She expressed various things, and showed us a lot of examples of dialects. [Signature of member C]
D (5, A) -He participated in this discussion enthusiastic. Though he said he didn't knew well about dialects, he did his best. [Signature of member D]
E (5, B) -He found some important factors well. He explained his opinions easily for team to understand. [Signature of member E]
F (5, C) -I was the p-keeper. I did my best to keep our protocol and sometimes I expressed my own opinions. For example, ... [Signature of member F]

付録3：実際の TPM レポート（個人情報削除）

* 文中の日本語は原文のハンゲルの部分を訳者が翻訳している。

Team X, protocol #X

Names of Members: A: チョン B: チェ C: キム D: イ E: Ruibo F: チョ G: Wei H: キム I: Vi

Title: Relationship between culture and one's language

Date: June 9

Place: Woodang Hall 309

Presider: B

P-Keeper: A

Main Protocol (in summary): What is language (Reference table), their characteristics/features and their role(s) in global context.

B: Then let's start with gender part.

C: Girls usually use 'ŋ' pronunciation for trying to be cute. And they use emoticons, facial expressions and body's expressions for the same reason. For example '><'. How about in China? You guys use '><' either?

G: Chinese use no such a thing.

E: I think that in China there are unique expressions instead of 'ŋ' pronunciation or '><' like 'La' or 'fa'

I: In Hongkong and southern part, girls use 'lalalala' or 'fafafafa' at the end of their conversation for appealing themselves cute.

B: Is there any example in southern language for revealing women's gender?

C: Something in gossip girl, I can't remember.

B: You mean XOXO; kissing? I think dialects could be cute or adorable.

C: I don't think so. Gyeongsang girls usually use 'お兄ちゃん' and some Seoulites consider it as cute or adorable but to men who use same dialect it's little bit aggressive. Don't you think so Man-geun?

A: Yeah, I agree. If some Seoulite men feel dialect as an adorable expression, that's because it's not common for them. When it comes to native users, they don't have any attractions. It's similar to while many Koreans consider English or other western language cool, its native users don't agree to it.

B: Let's move to psychology part.

D: I want to quote some articles that I read about Brain psychology. Brain operates its extend part when we use second or third language not native one. But during

premature time, brain considers several different languages as same things. That's why premature youngsters learn foreign language faster than those who after premature time because brain needs more operation to learn other languages.

B: How about Social class part?

G: Language makes us feel intimate each other and at the same time proud, social bonds between people use same languages.

A: And at the same time, it makes us feel apart or awkward to communicate with people use different languages.

C: I can't pronounce 日曜日 or 月曜日 when I am using 方言, but I can do it while speaking standard language.

D: Standard language is more official.

C: Using usages are different among different social classes. More educated and cultured people use more difficult and china-characterized words.

A: It reveals that language is also a tool for evaluating its users. Some people think that French is a noble language, maybe that cognition comes from fantasy to luxurious life of French noble men.

B: Speaking French might be a high class culture. There's a rumor that 코·ヒョンジョン (訳者注: 韓国のタレントの名前) was ignored for not using French from his ex-husbands, a son of the president of 新世界 Group.

C: Slangs can reveal its users' unconscious mind and occupation-related usages or professional words or terms reveal its users' occupation.

I: People's image usually is determined by words they use.

B: Next is about Marriage.

C: I don't know it because we haven't marriage yet.

G: People usually use different words and conversations after marriage.

D: Consciously or unconsciously?

G: None of them. It's more like concepts of custom.

E: Married woman change their last names to their husband's.

G: Isn't it western culture? Chinese do so?

E: Some part of China, they do so.

B: Let's talk about Globalization.

C: These days there are increasing those who can speak Korean even though they are not native users. I think it's effect of Globalization.

A: I think that Korean culture like K-pop, movies affect a lot on that situation. People live in other country are curious about Korea, and they want to learn Korean to dig it out.

B: At the same time, English or other languages become more close to us.

D: We speak more than bilingual because of globalization.

C: Yeah. These days kids are so good at foreign languages; English, of course, Chinese, Japanese, Spanish and so on.

B: Do you think that you use less dialects because of globalization (to dialect users)?

D: I don't know exactly. But globalization requires us high quality of communication skills. So we have more chance to keep in touch to standard language. So we use dialect less than before.

A: TV, Radio, and other mass media have affected tremendously on that. They fix us to use more standard language.

C: Korean live in LA, they use Korean but it's sort of different. It's different because their Korean is reflected by their uniqueness.

G: While large groups develop their own language, small groups lose their language. I think people should learn foreign language at the base of their own native language. If not, they might lose their own native language.

C: Previous language and culture can be lost. I agree.

B: Standard and non-Standard topic seems useless for this part.

E: Chinese learned Russian instead of English as second language some years ago.

B: It's fair enough. Also Korean second language was Japanese not English some time ago. And talk about media.

C: Trendy words spread out through media.

B: Education in 地方, they use standard language instead of dialects right?

D: Text books and supplementary things are about standard language

G: But teachers use?

D: They use dialects.

C: I thought that I use Standard language not dialects when I was in クミ (訳者注: 韓国の地名).

A: You did so? I recognized that I'm a truly dialect user.

D: Standard language and Seoulite language used in TV is different. Media and real life language is different.

A: And move to Economy.

C: Economy is related to second and third language in order to survive.

B: ETS earn a lot of money because of English tests they hold. It is economy.

G: Globalization is related to economy language. Deals or economy activations are done by English.

D: More and more people can use English because institute or education infra developed well.

B: Let's finish our last protocol.

<Tally & Report>

A <7, A+>: As a P-keeper, I managed to write everything down as possible and also participated in the debate actively. (confirmed)

B <15, A+>: As a preside, she organized the discussion well. She gave everyone time to speak. She also gave points that were necessary for us to share. And she participated with some ideas. (confirmed)

C <14, A+>: Very active throughout the whole debate. Gave constructive points and had diverse view points on a topic. (confirmed)

D <9, A+>: He had many good points about the whole topic and gave great examples related to brain, which made the discussions flourish. (confirmed)

E <4, A>: Took some part in debate and talked about Chinese culture. (confirmed)

F <0, B+>: She was not fully active. (confirmed)

G <8, A+>: Could see her efforts to discuss with our teammates and had solid reasoning with examples. (confirmed)

H <0, B+>: He was not fully active. (confirmed)

I <1, B+>: He was not fully active. (confirmed)

付録4：実際の講義評価

(学生は合計4項目の質問に回答する。最初の項目は講義内容、教授法などを含む講義に関する全般的な項目である。その他の3項目は「授業進行」に関する項目、「授業環境」の改善を求める項目、そして休講後の補講の有無についての項目であるが、これは講義内容、教授法とは無関係である。)

質問1 授業全般に関する感想を自由に書いてください。(例：担当教員に伝えたいこ

と、特に良かったこと、あまり良くなかったことなど。)

Please comment about the class in general. (e.g. requests to the professor, what you liked most about the class, what you didn't like, etc.)

<回答>

- 1) it's been a great delight to be able to learn from you;
- 2) 先生、1学期間、お疲れさまでした。とても楽しく、いろいろな文化の人と出会えて楽しかったし、先生が私をこの講義を受講するようにしてくださって本当に感謝しています。何よりもチームメイトと仲良くなれて、授業も楽しく受けることができ、とても光栄です。ありがとうございました。
- 3) プロトコルを通した授業内容は退屈せずに面白かったです。全ての学生に均等に話す機会がありましたが、留学生に比較的多くの機会があったように感じました。その点だけ直してもらえればと思います。
- 4) とてもおもしろくて有益な1学期を過ごせたので、良かったです。これで終わってしまうのが残念です。
- 5) the class was fun, however there were times that i did not understand why the professor would talk about his personal life. I mean, it was fun and all, but I didn't see the connection with the class.
- 6) What I liked most about this course is that the professor was very enthusiastic about his lectures. Also, his classes followed the exact course guidelines, which made students each to follow. I also liked the protocol system, which students that were formed into different groups discussed about issues of each chapter. I had the opportunity to share my ideas and make new friends.
- 7) 先生、本当にありがとうございました。とても充実した内容の授業となりました^^
- 8) no
- 9) 授業に参加しなくてすみませんでした^^
- 10) 1学期間、ありがとうございました。
- 11) It was unique and interesting course! Thanks for the semester.
- 12) 先生の英語がとてもお上手なので驚きました。プロトコルという新しい授業方法だったので、最初は慣れてなくて、ぎこちない感じでしたが、すればするほど討論がいいと思いました。思ったよりも話すことが多く、討論も熱心にできたので、時間が足らなくなって、もったいない気持ちになりました。また英語で行われる講義だったので、留学生の比率も高く、外国で生活した経験のある人も多くいたので、いろいろな文化に接するこ

とができたと思います。1学期間を通して一番楽しい有意義な授業だったと思います。ありがとうございました。

13) 先生、このようなやり方で、言語学に関連しない授業もしてくださったらいいと思いました。いろいろな関心分野の先生の基礎知識を聞いて、私たちだけでこのように討論をして答えを見つけ出す授業をしてみたいです。お疲れさまでした。

14)

15) Thanks to Prof. You, I learnt really a lot in this class. It's one of the best courses I've ever experienced in Korea University. Protocol method is creative and works quite good. Sometimes, I feel sick when prepare for protocol, but when it comes to mid or final exam preparation, I feel really relaxed because we've already talked about most of the content in protocol. It's quite helpful.

16) the given information and instructions for class discussion were unclear during many times

17) I enjoyed going to this class. The learning materials were easy to understand and the protocol sessions were especially entertaining. Due to the protocol sessions, we could get a better understanding of the concepts and ideas we learned in class. It was also helpful to hear other people's ideas. The protocol sessions were also helpful in getting to know our classmates better. I made a lot of friends with the people from my group. Overall, I enjoyed and learned a lot of things in this class.

18) really liked the protocols.

19) 先生の言語と文化の講義は私が1学期の間にとった授業の中で一番友達に勧めたい講義です。もちろん授業でのリスニングが楽で、課題や試験の負担が少なかったという理由もありますが、他の学生と話して学んで、試験のときに（申し訳ないのですが初めて！）本持ち込みで、有名な理論などを学べたのが有意義でした。

20) 自由な授業の雰囲気と先生が常に学生と意思疎通を図ろうとしていて、良い授業でした。ありがとうございました。

21) thank you.

22) ありがとうございました。

23) 楽しかったです。いい講義でした。

24) 授業で内容をもっと深く学習できたほうがよかった。

25) 本当にいい授業でした。本当にありがとうございました、先生。

26) It was an interesting class although I felt it was a bit less organized at times. The class overall was very lively.

27) This was a great class, I really enjoyed it, and learnt a lot from it.

28) It is regrettable that the professor didn't warn students whose chatter was so annoying as to bother other students. It would have been better if he had warned them to be quiet.

29) 最初は外国人の交換留学生や留学に行ってきた人々と一緒に英語で討論することに慣れてなかったので難しかったけれど、このような機会を通じて自信がついたし、いろいろなことをたくさん考えたので、以前よりは英語で表現することが難しくなくなってきて良かった。

30) 本当にとってもいい授業でした。

31)

32) I loved the free flowing nature and openness of the class and especially the protocol sessions. I feel however that the information covered in class was mostly basic linguistic knowledge and did not seem to focus in on the relationship between language and culture specifically.

33) 先生、ありがとうございます。言語と文化についての相関関係以外にも学んだことが本当にたくさんあったように思います。初めて会った人と親しくなれる Group Protocol システム、先生が授業中に話されたこと、そして学生が積極的に参加できるように指導されたこと、本当にありがとうございました。

34) 授業の進行が散漫だった傾向がありましたが、全般的に学生たちの自発的な参加度が高い授業でした。

35) The class was very well designed and I was able to freely express my opinions.

36)

37) 1学期間、指導してくださってありがとうございました。プロトコルで進む授業がとても興味深かったです。残念な点は、プロトコルの内容がすぐにわかるように整理されていなかったところです。私の外国語の実力が十分でなかったなので、授業にうまく参加できなくて申し訳なく思います。恥ずかしいです。

38) na

39) it was very interesting and nice class.

40) 先生の授業は良かったです。留学生がたくさんいて新鮮でした。

41) ありがとうございました。英語の実力がとても向上したように思います。

42) いつも笑いながら学生たちの自由な意見を聞いてくださった先生の授業進行はとても印象深かったです。しかし、授業と関係ない内容もあり、授業の支障となったと思いま

す。

43) 先生が学生みんなが参加できるようにしているのが一番気に入りました。授業の活動しているときに、全ての学生がうまく混じり合い、いろいろな友達と討論をしながら楽しく授業ができました。

44) prof made a lot of the students involve- ask questions to foreign students to give the students a clearer idea of the actual cases in real life. I found it really interesting. Protocol sessions allowed me to meet more people and engage in interesting discussions.

45) プロトコルは、最初ちょっと負担に感じましたが、これを通して多くのことが学べてよかったです。

46) プロトコルは全般的に良かったです。プロトコルに対する動機付けがもう少しあればと思いました。

47)

48) 授業もおもしろくて、先生もとても良い方で、一学期間楽しかったです。同じチームで protocol をすることもおもしろかったです！一学期にとっても多くの protocol があったので期末テスト期間に急いで2～3個した時はちょっと大変でした。―― それから、授業時間に講義と教科書から習ったものがあまり定着しなかったように思います。チームの人たちと親しくなれたのは良かったけれど、特別な知識が深まったという感じはありませんでした。――

49) プロトコルに関連しては、1学期間グループを変えることがないので、うまくいくチームとうまくいかないチームがあって大変だと思いました。その点をもう少し考慮してくださいと思いました。また、学部生のグループ分け方は良かったとは思いますが、1、2人ほど一緒のグループになりたかった人もいたので、その点は考えて下さった方が良かったです。私は同じ学科の同期の人や先輩や、一緒に講義を取ろうと言ってくれた友達と一緒にグループだったら、もっと参加できたと思います。――ちょっと言い訳っぽいのですが――よい教養科目を受講できてよかったです。今後とも、また先生にお会いできたらうれしいです！:) キニ（訳者注：先生が飼っている犬の名前）にもよろしくお伝えください!!

50) 先生が熱心でした。

51) 全般的に満足した授業だった。

謝辞

2010～2011年の研究休暇中に快適な研究環境を整えてくださった University of Queensland (Brisbane, Australia) のチョン・ジェフン教授と立命館アジア太平洋大学 (別府市、日本) のキム・チャンフェ教授、関連資料収集でお世話になったユン・セラ、キム・スジョン先生に感謝いたします。

訳者後書き

本論文で取り扱われている TPM は 2011 年より立命館アジア太平洋大学 (日本)、ハワイ大学マノア校 (米国)、北京大学 (中国) で紹介されており、ワークショップも開催された。また、著者が教鞭をとっている高麗大学 (韓国) だけではなく、立命館アジア太平洋大学 (日本)、ハワイ大学マノア校 (米国)、ハーバード大学 (米国) では、TPM を用いた授業が実際に行われ、効果をあげている。TPM は従来型の成果中心ではなくプロセス中心の評価と指導ができるという点で教育的な活用価値があり、英語によるコミュニケーションスキルや考える力の養成をめざしている本校においても、TMP は1つの教育メソッドとして有効だろう。また、将来、本校に多くの留学生が在籍するようになれば、本論文中にあるような授業も想定できると考えた。以上の理由をもって、本論文を日本語訳する意義があるとし、翻訳を行った。